

H29.8.22《兵庫支部》 「一人一人が未来の担い手に」

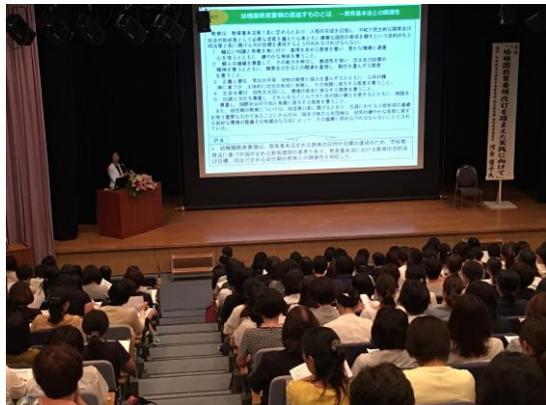
講師：河合 優子先生（文部科学省初等中等教育局 幼児教育課 幼児教育調査官）

演題：「幼稚園教育要領改訂を踏まえた実践に向けて」

夏休みの後半、平成の大修理を終えた姫路城（白鷺城）を望む「イーグレ姫路」において、290名の先生方と共に、文部科学省の河合優子先生のお話を通して、幼稚園教育要領改訂の背景や方向性を学び合いました。

小学校教育と幼児教育つながりにおいては「円滑な接続」、幼児教育の各施設においては、「保育所保育指針」「幼保連型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」の整合性が意識的に見直され、「新しい時代に必要な資質・能力の育成」が実現するようとの理念が、改訂の背景に貫かれていることを教えていただきました。

各園では、この理念を理解し、小学校につながる資質・能力について、意識しながら日々の保育を見つめ直していくこと。若い先生方も、各園の教育課程の編成に主体的にかかわり、園全体でカリキュラム・マネジメントし、評価する重要性をお話いただきました。遊びの中で学ぶ幼児の姿を通して、育まれている力や学びを説明できる力が必要だと感じました。



また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより浮かび上がってくるものであり、決して教え込むものではなく、到達目標でもないことを繰り返しお話しいただきました。

各地域では、同じ小学校に入学する幼稚園・保育所・認定こども園の子どもたちの交流を積極的に行なったり、公開保育等を通して職員間で協議したりすることが重要だと実感しました。

一人一人の子どもたちが、未来の担い手として活躍し、他者と協働しながらたくましく生き抜いてほしい。

よりよい未来を、自分たちの手で切り拓いてほしい。

長い歴史を重ね、なお美しく力強くたたずむ姫路城のもとで、これからの幼児教育について、河合先生から多くの示唆と勇気をいただきました。

これまでの、実践を大切にしながら、新しい幼児教育の一步を踏み出したいと思います。

河合先生、ありがとうございました。



— 国宝 姫路城 —